



特集

佐賀大学校友会

活躍する佐大OB

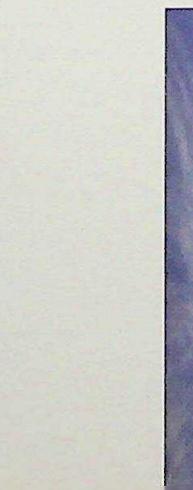
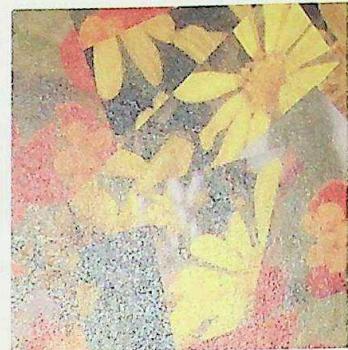
こころとからだの健康増進を目指して

イキイキ佐大生

国際交流

留学生活活動報告

サークル紹介 etc



# 佐賀大学の応援団

佐賀大学校友会は、役員・教職員、同窓会員、卒業生・在学生、その他佐賀大学を応援してくださるすべての方々を構成員として、校友相互の親交を図るとともに、佐賀大学の発展に寄与するための支援組織として、平成20年4月に設立しました。

**佐賀大学には、大学を支援する組織として同窓会・後援会・校友会等が設立されていますが、その違いは…**

同窓会は卒業生によって構成されている組織です。また、後援会は学部ごとに学生の保護者により構成されている組織です。同窓会や後援会では、主に就職に特化した支援を各学部のニーズに沿つて行われています。

それに対して校友会は、佐賀大学教職員をはじめとして、大学を応援してくれる個人及び団体等、佐賀大学にご理解・ご協力をいただける方々も含めた組織であるところが同窓会や後援会と違うところです。

校友会は、様々な方々を構成員とする組織として、全学部学生を対象とする国際交流支援事業や、また、大学と同窓会・後援会等のつながりの強化を目指した支援事業等を行っています。

## 校友会学生活動支援事業

### 「国際交流支援奨励金」事業

平成22年度活動状況

佐賀大学学生の国際的な学習・研究活動への参加による学習・研究能力向上と国際交流の深化を奨励することを目的としたものです。対象者は、本学の学部及び大学院の正規課程に在籍する学生(留学生を含む)です。



#### 東アジア国際フォーラム(中国)

工学系研究科博士後期課程システム生産科学専攻2年

劉

巍



#### 世界健康教育・ヘルスプロモーション学会(スイス)

教育学研究科教科教育専攻1年 満 武 華代



#### 16th European Symposium on Fluorine Chemistry(スペイン)

工学系研究科博士前期課程機能物質化学専攻2年

廣瀧 謙亮

#### 3rd International Symposium on Intelligent Informatics(中国)

工学系研究科博士前期課程電気電子工学専攻2年

陸門 将也

#### ハワイ大学臨床推論ワークショップ(ハワイ)

医学部医学科3年 野崎 夏子

#### ハワイ大学臨床推論ワークショップ(ハワイ)

医学部医学科4年 戸次 宣史

#### ハワイ大学臨床推論ワークショップ(ハワイ)

医学部医学科5年 長島 哲理

# 佐賀大学校友会紹介



## 「課外活動等支援金」事業

平成21年度活動状況

## キャンパスツアー

今野教授による講演会



8月21日(土)、文化教育学部後援会の日程に合わせて、後援会及び校友会会員の皆様に、より校友会をご理解いただき、校友相互の親交を図ること、また佐賀大学の魅力を紹介することを目的として、「キャンパスツアー」を開催しました。

「キャンパスツアー」には、約100名の参加があり、佐賀大学校友会副会長である米倉茂理事から「挨拶及び佐賀大学の近況報告」と題した報告の後、文化教育学部の今野厚子教授が「和歌から短歌へ、解説から創作へ—『肥前路吟行』への招待ー」と題し、講演を行いました。今野教授は昨年11月に佐賀大学で収録、NHKで放送された「肥前路吟行～さがん文芸～」で入選した学生たちの短歌を紹介し、うたの楽しみ方などについて話しました。

また、大学会館フリースペースでは、近年展覧会で多数入賞するなどの活躍が目覚ましい美術・工芸科の学生らの作品22点が展示されました。第40回記念日彫展(日本彫刻会主催)で「日彫賞」に輝いた大学院2年の白石恵里さんの「仔山羊と人」も展示され、参加者の目を引いていました。

佐賀大学の教育の振興に資するために、課外活動を行う団体・個人に対して援助し、スポーツ及び文化活動の健全な発展を促進することを目的としたものです。

平成21年度は以下の団体・個人に対して、課外活動等支援金が給付されました。

### 団体 アイスホッケー部、剣道部

## 個人

松尾夏実(エアーライフル射撃部)

鶴田典子(剣道部)

石原裕介・岩橋遼平(硬式庭球部)

弓削昭大(卓球部)

深村扶美子・深村奈津子(バトミントン部)



平成22年度活動状況

## 校友会 校友間交流 支援事業

## 美術・工芸展示会場

熱心に見入る保護者の皆さん。  
素晴らしい学生の作品の数々…



## 校友会会員募集

## 会費

●正会員(個人) ..... 20,000円(終身会員会費)または 2,000円(年会費\*)  
..... \*2万円に達した場合は、終身会員になります。

●賛助会員(団体に限ります。) 1口/50,000円

払込方法 現金又は郵便局振込にてお願いいたします。

●現金の場合は ..... 佐賀大学校友会事務局にて受領いたします。  
●郵便局の場合は ..... 振替口座: 01760-0-49425 / 振替名義: 佐賀大学校友会  
..... (振込料金は校友会で負担いたします。)

## 校友会に関するお問い合わせ

## 佐賀大学校友会事務局

〒840-8502 佐賀市本庄町1(国立大学法人佐賀大学 本部3階)

**0952-28-8390**

月曜日から金曜日 8:30~17:15(祝日は除く)

ホームページURL

<https://koyukai.admin.saga-u.ac.jp/>



▲旧佐賀医科大学学生時代  
(当時住んでいた寮の前で)

現在のお仕事について教えてください

現在、私は佐賀大学の学生および教職員の方々の健康管理をしています。産業医としての毎年の教職員の健診業務は勿論のこと、最近はメンタルヘルスが低下している方が増えつつありますので、学生や教職員の心理相談も行っています。年間800～900名(延べ人数)の方が1人1時間の枠内で心理相談に来られ、年々増加傾向にあります。なぜ増加しているのかとよく尋ねられます。が、人間関係が希薄化しているのか、人間関係が複雑化しているのか、皆さん、何事も完璧にしないと人からあれこれ指摘されるのが嫌なのでしょうか?ストレスですね。人ととの衝突をさけるために、人とぶつかることが苦手で、自分に自信が持てず、人間関係の免疫不全状態に陥っている人が増えている印象を受けます。地域との連携では、ここ2～3年間、小中高校や県の関連機関など

で、メンタルヘルスの講演を行っており、この2年間は年に50回の講演を行いました。また、今年4月から「サガソニ鳥栖健康増進プログラム」「ピカビカラ☆サガントス」推進協議会の会長を拝命し、県内の高齢者の健康増進や体力維持を目的としたイベントや明るく豊かで活力に満ちた心身の健康づくりに取り組んでいます。

### 大学で学んだことを教えてください

私は佐賀医科大学の第1期の卒業ですが、私自身も学生時代はそれほど健康で自信に満ちていたわけではありません。しかし、開設当初は医学塾みたいな大学でしたので、先生方とは友人みたいに食事を一緒にしたり、テニスをしたり、歌ったり、それは楽しかったです。大学で学んだ一番大切なことは、「語り合うこと」「信頼できる友をもつこと」です。チューイー制度が整っていたので、自分が困った時も、友人宅で朝まで話したこともあります。

### 旧佐賀医科大学での思い出は?

旧佐賀医科大学で思い出深いのは、入学当初の龍登園へのウォーキング。みんなで語り合いながら、歩きました。また、食事をして、語り合いました。こんなことが不思議に思い出として心の中に残っています。

平成21年に第30回全国大学メンタルヘルス研究会を東京で、平成22年に

# こここうとからだの 健康増進を目指して



健康管理センター所長・産業医  
**佐藤 武**  
昭和59年 佐賀医科大学卒



私が勤務する佐賀大学保健管理センターを少し紹介します。スタッフは本庄キャンパスと鍋島キャンパスに別れていますが、本庄キャンパスでは所長1名、内科医1名、看護師2名、事務補助1名、学生カウンセラー2名（非常勤）、産業カウンセラー1名（非常勤）、産業保健師1名（鍋島と本庄の兼任）です。一方、鍋島キャンパスでは副所長1名、看護師1名、学生カウンセラー1名（非常勤）、産業カウンセラー2名（非常勤）、産業保健師1名です。主な仕事の内容は、①定期健康診断、②特別健康診断：スポーツ学生健康診断、RI（放射性物質取扱者）健診など、③健康相談：心理・精神面の相談（精神科医）および身体面の相談（内科医）、④応急処置、⑤健康診断証明書の発行、⑥その他（自動身長・体重計、体脂肪計、全自動計、自動視力計、アルコールパッチテスト、肥満や食事、禁煙、エイズ、性病についての相談など）を行っています。法人化以後は、これに加えて、産業医として、本庄地区労働安全衛生委員会委員長などの仕事も兼務するようになりました。教職員の方々の健康管理も大切な業務となっています。

これからは、大学の業務をしっかりと遂行することは当然ですが、時間があれば、地域の方々と「心と身体の健康増進」にさらに取り組んでいきたいと思っています。



▲保健管理センタースタッフ（本庄地区）



▲リラクゼーションルーム（本庄地区）



▲保健管理センター（鍋島地区）



▲尾崎副所長（右）、武富看護師（左）（鍋島地区）



第40回九州地区保健管理研究協議会を佐賀の地で開催できましたこと。平成23年には第27回日本精神衛生学会を佐賀大学医学部で開催予定です。勿論、一番の喜びは、日頃の心理相談で、悩んでいる相談者が自然に回復されることを見守ることですが…。

**これから夢や目標を教えてください**

今取りかかっている「サガン鳥栖健康増進プログラム『ピカピカ☆サガントス』」を5年間かけて、県内の多くの方に広めて、心と身体の健康をさらに増進して、皆さんに喜んでもらうことです。近いうちに、サガン鳥栖のホームページにリンクされると思いますが、ここには、イベント情報、ウォーキングルート、アドバイス、簡単ストレッチ、健康体操、健康レシピなどが掲載されます。何といっても、すばらしいのは、電子万歩計で2週間の歩数を記録・管理できること。自分で記録管理して、介護予防、健康促進を目的として利用することができます。佐賀県に1人でも介護が必要な人を予防的に減らすことです。

**在学生や大学を目指す若者たちにメッセージをお願いします**

「何かに没頭して、それが何らかの形で社会の役に立つていると実感できる仕事をもつこと」です。多くの友人とつながりを通して、人と人との違いを受け入れることができ、どんな方に対しても尊重の意を表現できるになつてもらいたいと思います。

# より良い インターネット環境の 実現に向けて



総合情報基盤センター 准教授

おお たに まこと  
大 谷 誠

2000年代に入りインターネットは急速に普及しました。このインターネットは、大学における研究的な利用だけでなく、もはや日常生活においてなくてはならないものとなっています。このインターネットを安全に、そしてなにより便利で楽しいものにすることを目的として日々研究を行っています。

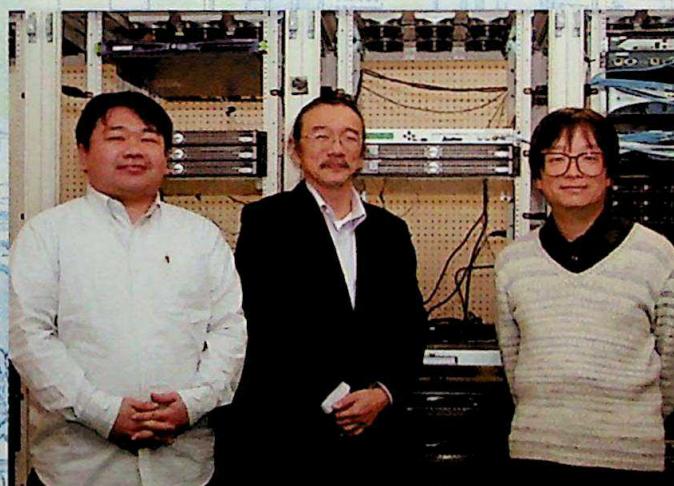
佐賀大学の総合情報基盤センターが運用しているネットワーク利用者認証システムであるOpengateも研究成果の一つです。佐賀大学では、コンピュータ演習室や、図書館などのようにあらかじめ設置されたパソコンだけでなく、自分で所有しているパソコンを自由にインターネットに接続できる環境が整備されています。このネットワークを利用する際の利用認証や記録を行うための仕組みがこのOpengateです。これまで様々な改良を行ってきましたが、2010年度にはOpengateによるネットワークの利用認証をおこなうだけで、他のWebサービスを認証なしで利用可能とするシングルサインオンと呼ばれる機能も実装しています。この仕組みは、全国的にみても非常に先進的なものといえます。

その他の研究テーマとして、次世代のインターネットの仕組みであるIPv6に関する取り組みも行っています。現在のインターネットは、通信機器を識別するために用いられているIPアドレス(インターネット上の住所に相当

するものの数が足りなくなってきたおり、来年にもこのIPアドレスがなくなるといわれています。このような現在のインターネットの問題を解決する新たな仕組みがIPv6です。この研究の一環として佐賀大学のネットワークのIPv6対応を進めています。先に述べたOpengateによるネットワークもIPv6に対応しています。

また近年では、サーバの仮想化に関する研究も行っています。大学などにおいて、インターネットを使ったサービスを提供する場合、サービスごとに様々なサーバを準備する必要があるため、それを実現ための物理機器が多くなってしまいます。サーバの仮想化とは物理的構成にとらわれず、サービスを実現するための技術です。この技術により少ない台数の機器で多くのサービスを実現することが可能となり、電力や管理コストの削減が期待できます。このような仮想化の技術を用いたネットワークの運用・管理の研究を行うとともに、佐賀大学のサーバの仮想化も実際に進めています。

インターネットは、すでにほとんどの人が利用可能な環境が整いつつありますが、トラブルの発生なども多く、誰にとっても簡単で便利なものであるとはいえない。これらの研究の成果が、これからのインターネットや、佐賀大学のネットワークの利便性の向上に少しでも繋がれば幸いです。



只木進一総合情報基盤センター長(中央)、渡邊健次副センター長(右)とともに

▲シングルサインオン認証画面

▲仮想サーバ管理画面

# いっしょに ぶことの 楽しきを通じて

外国語はどう勉強するのが一番いいのでしょうか。ある日本の有名な文法学者は、完璧な文法書と辞書があれば外国語は身につくと言っています。

完璧な文法書などというものは、現在のところまで開発されたことがないので、この真偽はわかりませんが、この話には、「言葉は辞書のように、万遍なく知るべし」という考え方方が潜んでいます。でも、実際には如何に母語でも、すべての言葉の適切な使い方を身につけることは不可能です。広く万遍なく学ぶよりは、どの領域（ドメイン）の言葉を学びたいのかをまず考える必要があるといえます。

佐賀大学では、全外国人留学生の約三分の一の学生が、留学生センターが開講している日本語コースで学んでいます。ひらがなの読み書きから覚える学生もいれば、日本語で論文作成の方法を学んでいる学生もありますが、共通するのは、大学生に必要な日本語、いわゆる「アカデミック・ジャパンーズ」を学んでいるということです。2009年からのカリキュラム改革には、この領域（ドメイン）という考え方を使われています。

先の文法学者の言葉には、もう一つ、「言葉は一人で勉強できる」という考え方も潜んでいます。しかし、最近、日本語教育の分野では、「クラスメートと学ぶ」ことの重要性が見直されるようになりました。ネイティブ・スピーカーと話すだけではなく、外国人同士が会話をすることによっても、会話能力は大幅に向上することがわかっています。読解や作文でも、クラスメートといっしょにディスカッションしたり、推敲することによっても、教師が一斉に授業するより、よりよい効果があると考える研究者たちも現れています。

私はグループ学習を多く使う授業を行っています。例えば、読解のクラスでは、グループで課題を読んだり、内容について話し合ったり、作文のクラスでは、クラスメートの作文を批評し合ったりしています。言葉が出てこなくて四苦八苦しながらも、何とか伝えようと学生たちはがんばっています。そこでの教育効果の詳細な検討はこれからですが、個人の発言機会が増えるといったことに、読解文への理解が深まる、他人の作文から自分の間違いに気づくなど、様々なことが観察されています。話し合いの内容も、教師の予想をはるかに超えた優れたものであることが少なくありません。クラスメートとの交流を通して、学生たちの日本語能力はずいぶん堅固なものになっていることが予想されます。

言葉は受け手がいて初めて意味をなすという当然のことを、日々学生たちから学んでいます。



留学生センター 准教授  
なかやまあきこ  
中山 亜紀子



グループ学習で  
日本語を学ぶ様子



授業風景



「BLS・ALSサークル  
蘇生の会」代表  
医学部医学科5年  
お 尾 崎 立 尚



保育園での蘇生法実習指導の様子

「肘を伸ばして、胸の真ん中を垂直に押してください!」「目線は倒れている人の脇の下あたりに置くようにするといいですよ」これは私が胸骨圧迫(心臓マッサージ)の正しい方法を伝えるときによく使う言葉です。



乳児への蘇生法指導

こんなちは、「BLS・ALS※サークル蘇生の会」代表、尾崎立尚です。私たちは佐賀にBLSを広めるべく、現在奮闘中の団体です。英語で「BLS」と書くと難しく感じますが、つまりは「胸骨圧迫とAEDの正しい使い方を広めていくこと」を活動の中心としています。

私たちの講習会に参加する方々は立場も様々、意欲も様々。そんな皆さんに興味を持つてもらい、正しい蘇生法を伝えることに難しさと面白さを感じながら、活動を続けています。この伝える行為を私たちは「インストラクション」と呼んでいますが、例えば伝える側がエネルギーを出して参加しやすい雰囲気を作る、相手の表情や仕草を感じてその時その時に必要な言葉をかける、やる気を引き出すフィードバックを心がける、などなどインストラクションには普段の日常ではなかなか経験できないコミュニケーション要素が詰まっています。

どんな仕事でも、人との関わりというものは必ずついてくるものだと思います。その中でも、医師や看護師という仕事は相手の気持ちを汲み、その時その時に必要な



「来てみんしゃい! 佐賀大学へ」での高校生への指導の様子

言葉をしっかりと伝えることが特に求められてきます。このサークル活動はBLSを広めることと同時に、インストラクションを通じて目の前にいる相手をしっかり見て、関わっていこうとする姿勢を形成する場でありたいと私自身は思っています。

今現在、日本全国の多くの医学部に私たちのような団体が存在し、インストラクションの楽しさを感じた学生達が様々な活動を行っています。今年の9月には、そんな全国の仲間たち約150名が佐賀に集まり、ALS(二次救命措置)という病院内の専門的な蘇生法を勉強する講習会を開催しました。

その他、私たちの活動としては次回で9回目を迎える学内向けのBLS講習会を2ヶ月に1回、そして10月から本格的に開始した一般の方対象の学外講習会を1ヶ月に1回のペースで続けていく予定です。

「より多くの人に正しい方法を身につけてもらうことが最も大切」、そんな蘇生法が佐賀に広まっていくよう、そしてこれからもずっと続していく活動になるよう、みんなで頑張っていこうと思っています。皆さん、応援よろしくお願ひします。

講習会に参加したい、あるいは開催してほしいという方は、下記「蘇生の会HP」までご連絡ください。

#### 蘇生の会HP

<http://soseinokai.web.fc2.com>



浜宿の住人の方々と



浜宿で住民を交えての勉強会風景

今後、社会に出て新しい世界に飛び込む機会が増えると思いますが、不安の先にある「何か」に向かい、そして、支えてくれた方々への感謝を忘れず挑戦し続けたいと思います。

私は、所属する三島伸雄・田口陽子研究室で歴史的市街地の保存やまちづくりに関する研究を行っています。昨年、伝統的な環境が残る鹿島市肥前浜宿において避難経路確保に関する研究を行い、日本建築学会「優秀卒業論文賞」を受賞しました。

日本建築学会は、国内で最も伝統と権威がある学会の一つであり、関東、関西、東北の大学からの選出が多い中、九州・山口・四国地方から唯一選ばれ、佐賀大学でも初の受賞となりました。

研究内容としては、「地元住民の方々が災害時の避難経路どのように考えているのか」という実態を明らかにするもので、肥前浜宿に3週間泊まり込みヒアリングや実地調査など地元に密着した研究を行いました。

浜宿の住人の方々と  
浜宿で住民を交えての勉強会風景

「来週(3日後)から浜で調査ね！布団は、手配してあるから。」  
三島先生のこの一言で、私の泊まり込み調査は決まりました。心の準備もできず「一人でやりきれるのか」「ヒアリングを断られたらどうしよう」など不安を抱え、慣れない町での調査が始まりました。一件目のヒアリング先で、インターホンを押す時のドキドキ感は今でも忘れられません。夜には、トイレは外、テレビは勿論、2階には電気さえもないという江戸後期の物件に一人で寝泊まりしていたため、寂しさや怖さで押しつぶされそうでした。

しかし、調査を続いているうちに、町の良さや住民の方々の優しさに多く触れることができました。突然の訪問にも拘らず家中まで招き入れ、避難経

路以外に町の歴史や伝統のことも沢山教えて頂き、時には差し入れも頂きました。夜になると、宿泊先の前のご夫妻が気にかけて「まだ、頑張ってるね。」と訪ねてくださいました。そんな町の方々の優しさで、私の不安ばかりだった気持ちは、「次はどんな話が聞けるだろう」「どんな方々と出逢えるだろう」と調査を楽しむ気持ちに変わっていました。

今回の研究を通して、改めて「人の温かさ」に気づきました。私の研究は、皆さんのご好意のおかげで成り立っていますし、町の方々の優しさや「町を良くしたい」「自分たちの町をもっと知って欲しい」という気持ちを知ることで、私も「町の役に立ちたい」と熱意を持って研究に打ち込むことができました。

また、「挑戦することの大切さ」も同時に学び、新しいことに挑戦することが苦手な私ですが、今回の研究を終え達成感や自分なりの成長というものを感じることができました。それも、研究のきっかけを与えて頂いた三島先生・田口先生、町の方々の支えがあつたからだと思います。

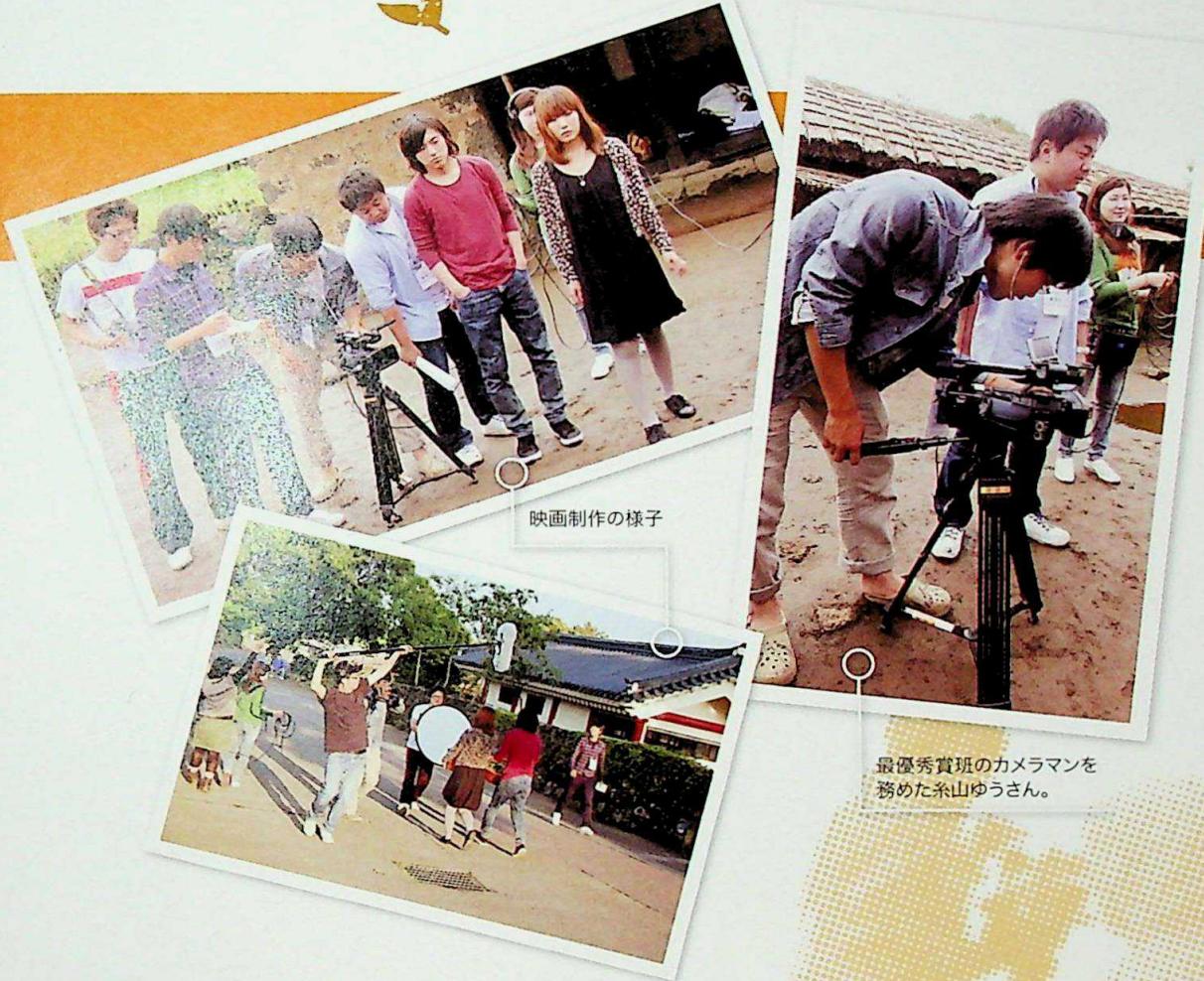
# 日本建築学会「優秀卒業論文賞」を受賞

たくさんの方々に支えら



工学系研究科都市工学専攻  
修士 1年 もと 本  
みや 宮  
なお 尚  
み 美

# 映画作りで 日韓交流



韓国済州特別自治道において 10月1日～5日まで第2回韓海峡映画祭若者映像交流プログラムが行われました。日本と韓国の若者40名が4つの混成に分かれ、監督・撮影・編集・俳優と役割を決め、3日間で映画を制作しました。

日韓双方とも映画や映像メディア関連の大学から参加している学生が多く、短い制作時間にも拘らず作品は非常に完成度の高いものでした。その中で最優秀賞は佐賀大学理工学部の糸山ゆうさん(デジタル表現技術教育プログラム専攻2年)です。また、もう一つの班では下津優太さん(同専攻、2年)が監督を担当しました。

今回は韓国済州島での開催で、沿岸部のソブチコジと内陸部の城邑民俗村に別れ撮影しました。特にソブチコジはドラマ「オールイン」や韓国映画のロケが多数行われているシネマツーリズムとして有名な観光地です。しかし、参加者は観光する余裕はなく、ロケハンを念入りに行い、ハードなスケジュールの中、毎夜遅くまで行われる打ち合わせや編集作業はプロの作業現場と言っても良いくらいでした。それほどモチベーションの高い若者が集まり、言語の問題に戸惑いながらもトラブルを解決し、審査員の映画監督も唸らせる作品ができあがりました。

参加学生の糸山さんは「共同制作を進めるなかで日本と韓国の映画制作技法の違いが分かりました。最初はそれでギクシャクすることもありましたが、それぞれの違いを認めることで撮影がスムーズになりました。今回は、自分の将来を決める上でも良い経験になったと思います。」と語ってくれました。

完成後、上映会が終わり涙を流しながらの別れは感動的でした。映画をつくったことは永遠に彼らの心に残るでしょう。プログラム企画に携わっている文化教育学部の中村隆敏准教授は、「映画制作も海外との共同出資や共同制作が今後は増えてくる可能性があります。このような若者の共同映画制作は他にあまり例がなく映像教育プログラムとして重要なモデルとなるでしょう。」と期待しています。

近い将来、この交流プログラムを行った人たちが日韓共同制作映画に関わっているかも知れません。

# STUDY IN SAGA

## 留学生活動報告

### OH's Report

#### — 5月 —

##### 新入留学生歓迎会

5月13日、佐賀大学留学生会が主催した新入留学生歓迎会を大学会館多目的ホールで行いました。各国の留学生や日本人学生、地域団体、大学関係教職員などおよそ200名が出席されました。



たくさんの留学生が母国のパフォーマンスを披露し、会場を盛り上げました。新入留学生は地域団体の方々、大学の職員方や留学生先輩と交流を深め、これからの大學生生活に生かして欲しいです。「みんな仲良くしようね～」

##### 第26回鹿島ガタリンピック

5月22日、留学生が鹿島高校を訪れ、高校生と一緒に面白いゲームを楽しんだり、美味しい手料理を食べたり、ガタリンピック交流会にも参加しました。そして地元の家族に温かく迎えられ、貴重なホームステイの機会がありました。

翌日の23日、第26回鹿島ガタリンピックが開催され、留学生は様々な面白い競技に参加し頑張りました。



特に「TSU・NA・HI・KI」の競技で佐賀大学の留学生は、大雨にも関わらず素晴らしいチームワークを発揮し、見事に優勝しました。「さだい！つよいぞ！！！」

とう  
王じつ  
実

工学系研究科  
先端融合工学専攻  
大学院1年生



私は中国から参りました王実と申します。平成22年度、佐賀大学留学生会会長を務めさせて頂くことになりました。まだまだ未熟な私ですが、何事にもチャレンジし、成長していきたいです。

広報誌「かちがらす」を通じて、佐賀大学でしかできない留学生生活を紹介していきたいと思います。

#### — 7月 —

##### 国際渓流滝登りinななやま



7月25日、「国際渓流滝登りinななやま」が唐津の七山村で開催されました。佐賀大学から多くの留学生が参加し、ゴールを目指して助け合いながら登りました。大自然を満喫しながら、参加者同士の絆もさらに深まりました。「涼しくてとても楽しかった」

#### — 8月 —

##### 栄の国祭り

8月1日、今年も佐賀大学の教職員と留学生をメンバーとする佐賀大学チームが参加しました。音楽に合わせて踊り、佐賀の伝統的なイベントを満喫することができました。「まさか佛淵学長もパレードに参加?!」



##### 留学生運動会

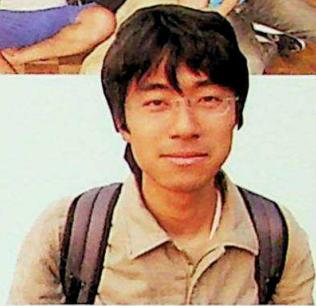
8月13日、留学生会と中国留学生学友会が企画した運動会を体育館で開きました。普段の留学生活では運動する機会が少ないため、バスケットボールやバトミントン、バレー、卓球などを通じて、より楽しく体を鍛えることができました。「ストレス発散ができたよ！」



## 熱気球部(本庄キャンパス)



部長  
くわの  
**桑野 晶大**  
理工学部物理科学科3年



みなさん熱気球に乗ったことはありますか?もしかして「見たこともない」な~んて言いませんよね?

私たち熱気球部は夏(5、6月)と冬(10~2月)の間、毎朝熱気球に乗って佐賀の空を飛んでいます。風と一緒に空を飛ぶ爽快感、上昇するにつれてだんだんと小さくなる地上の景色、ときには空を舞う鳥の背中や朝日が薄もやのかかった地上に差し込む様子を上空から眺めることも。熱気球によって得られる感動はとても言葉では伝えきれません。

しかし、熱気球はいつでもどこでも飛べる物ではありません。どうしても熱気球に接するチャンスは限られています。そのチャンスのひとつが熱気球ホンダグランプリという大会です。この大会に私たち熱気球部は競技役員として参加し、運営の手伝いをしています。年5回日本各地で行われるこの大会を盛り上げていくことも熱気球部の大切な活動のひ

とつです。毎年11月には佐賀で行われるのでぜひ見に来てください。空一面に広がる熱気球の姿は皆さんを楽しませてくれるでしょう。

私たち佐賀大学熱気球部は佐賀だけでなく各大会の開催地でもフライトをして、文字通り全国を飛び回っています。これからも私たちは、普段のフライトで熱気球の楽しさを満喫し、大会運営に携わることで熱気球のすばらしさをより多くの人に伝えられるように努力していきます。



## 茶道部(鍋島キャンパス)



部長  
さとう  
**佐藤 有記**  
医学部医学科3年



こんにちは! 医学部茶道部です。私たちは、火・金曜日の放課後に、サークル棟にある茶室で活動を行っています。月に一度は、佐賀で裏千家No.1の先生に来ていただいていま



す。皆さんご存じのように、茶道(茶の湯)は日本の心ともいえる、伝統文化の一つです。茶道に欠かせないことは、おもてなしの心です。客をもてなす亭主の心遣いは、点前の中のちょっとした所作にも表れます。また、茶道は歴史、考え方、茶道具や茶室に飾る美術品など、勉強すれば勉強するほど奥が深い文化です。私たちは、日本人が大切にしてきた茶の湯の心を感じながら、日々向上心を持って練習に励んでいます。

現在部員は36名ですが、この中の半数はなんと今年度の新入部員です。そして、私たち医学部茶道部の特徴の一つに、他の運動部や文化部との兼部者が多いことが挙げられます。窓の前で心を落ち着けて点前をする、また、万事に感謝して抹茶を頂く。忙しい学生生活の中でも、部員はそんなひとときを求めて部室に集まっています。

最後に、私たちは毎年むつごろう祭で茶会を開いています。今年も、子供からご年配の方まで計200名近くのお客様が来てくださいました。私たちの一年間の活動の集大成となる行事であり、全員で心を込めておもてなししますので、むつごろう祭にいらっしゃったときには、皆さん是非、茶室にお立

らしたときには、皆さん是非寄りください。



# 佐賀大学 オリジナルグッズ



佐賀大学公式マスコットキャラクター  
「カッチーくん」



■ オリジナルグッズとバラフスイーツを組み合わせた  
「カッチーくんのスイーツマルシェ」



佐賀大学で収穫された  
特別栽培米で造ったお酒

ゆう ゆう ち すい  
**「悠々知醉」**  
もあるよ!

3月には新酒販売!



オリジナルグッズは  
佐賀大学生協で販売しています!

連絡先 TEL 0952-25-4450  
FAX 0952-25-4287

## 授業料納入期限等に関するお知らせ

### 納入期限変更

口座引落(=口座振替)制度の見直しに伴い、平成23年度から授業料の納入期限を変更します。

区分	現 行	平成23年度以降
	納 入 期 限	納 入 期 限
前期分授業料	4月(4月30日まで)	4月～5月(5月31日まで)
後期分授業料	10月(10月31日まで)	10月～11月(11月30日まで)

### 口座引落日

口座引落日も、平成23年度から次のとおり変更します。

区分	現 行	平成23年度以降
前期分授業料	4月30日	5月27日
後期分授業料	10月31日	11月27日

※口座引落日は、土・日・祝祭日の関係で変更の場合があります。

※授業料は、口座引落日の前日までに、お届けの口座にご入金をお願いします。

### その他

#### 口座引落可能な「金融機関」を拡大！

授業料の納入は、原則としてお届け口座からの口座引落のご利用をお願いします。

従来、対象となる金融機関が限定されており、皆様にはご不便をお掛けしておりましたが、平成22年10月以降は、全国のほとんどの金融機関から口座引落が可能となりました。

一度手続きされると、口座引落開始時からご卒業まで、手数料なしで授業料を半期ごとに納入できます。  
まだ、手続きがお済みでない方は、是非この機会に手続きをしていただきますよう、よろしくお願ひします。

※口座引落日以降は、最寄りの金融機関から本学指定の口座に「振込」をお願いします。  
(例えば、口座引落日までに入金が間に合わなかった場合など)

※ご不明な点等につきましては、下記問合せ先までお尋ねください。

#### 例えば、こんな場合

- 口座引落の手続きをしているかどうか判らない
- 口座にお金は入っていたのに、口座から引き落とされていなかった  
(手続きはしたが、どの銀行口座か判らなくなってしまった)
- 口座引落を利用せず、大学の口座に直接振り込みたい(手数料は個人負担する)

#### お問合せ先

〒840-8502 佐賀市本庄町1

佐賀大学財務部 経理調達課 収入担当

TEL0952-28-8143 / FAX0952-28-8952



## 受験生の方へ

## ●一般入試

## &lt;前期日程&gt;

学部	出願期間	試験日
文化教育学部		
経済学部	平成23年1月24日	平成23年2月25日
理工学部	～平成23年2月2日	
農学部		
医学部		平成23年2月25日・26日

## &lt;後期日程&gt;

学部	出願期間	試験日
文化教育学部		
経済学部	平成23年1月24日	平成23年3月12日
理工学部	～平成23年2月2日	
農学部		
医学部		平成23年3月12日・13日

※後期日程の理工学部は、個別学力検査を課しません。

## 企業・研究者の方へ

- 産学連携について
- 大学との取引関係について
- 学生の就職関係について
- 職員募集について
- 大学の教育・研究について
- 佐賀大学支援について
- 佐賀大学について

佐賀大学  
ホームページへ  
アクセス!

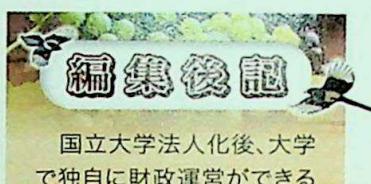
佐賀大学 検索  
<http://www.saga-u.ac.jp/>



## 国立大学法人佐賀大学の役職員の報酬・給与等について(概要)

国立大学法人佐賀大学では、役員の報酬等及び職員の給与の水準を公表しております。公表内容につきましては、「佐賀大学ホームページ <http://www.saga-u.ac.jp>」をご覧いただか、または、人事課給与主担当で文書資料を用意しておりますので、ご連絡ください。(TEL 0952-28-8125)  
なお、公表内容の概要は次のとおりです。

1. 職員と国家公務員及び他の国立大学法人等との給与水準(年額)の比較指標  
事務・技術職員



## 読者アンケート

佐賀大学広報誌「かちがらす」第20号について、ご意見をお聞かせください。

## ■「かちがらす」第20号で興味深かつた記事は何ですか？(複数回答可)

1. 特集 佐賀大学の応援団 佐賀大学校友会紹介
2. 活躍する佐大OB こころとからだの健康増進を目指して
3. 研究紹介 より良いインターネット環境の実現に向けて
4. 教育紹介 いっしょに学ぶことの楽しさを通じて
5. イキイキ佐大生  
インストラクション  
日本建築学会「優秀卒業論文賞」を受賞  
— たくさんの方々に支えられて —
6. 国際交流 映画作りで日韓交流
7. 留学活動報告 STUDY IN SAGA
8. サークル紹介 茶道部(鍋島キャンパス)&熱気球部(本庄キャンパス)
9. 佐賀大学オリジナルグッズ紹介
10. お知らせ 授業料納入期限等に関するお知らせ  
佐賀大学メールマガジン登録受付中!!  
国立大学法人佐賀大学の役職員の報酬・給与等について

## ■「かちがらす」全体の印象はどうですか？

1. 良い
2. まあまあ
3. 良くない

■「かちがらす」についてのご意見や、今後取り上げてほしいテーマ  
がありましたら、ご記入ください。

佐賀大

毎号、受験生  
登録は、→

# 誌上ギャラリー

作品名

## 「おだやかな時間」

(第60回佐賀県美術展 佐賀県知事賞)

こばやし

かおり

小林 香織 (文化教育学部美術・工芸課程4年・日本画専攻)

と き



### 【作者プロフィール】

- 1988年 佐賀県生まれ  
 2008年 第58回佐賀県美術展 入選  
 2009年 第92回佐賀美術協会展 奨励賞  
 2010年 第60回佐賀県美術展 佐賀県知事賞

### 【作者コメント】

この作品のテーマは「日常の暖かさや幸せのある空間」です。  
 日常にある幸せや暖かな時間を見つけて大切にしてほしい。そんな思いが表現できた作品となっていました。

本学の情報を携帯電話で見ることができます。簡単アクセスはQRコードをご利用下さい。  
 携帯用 URL:<http://daigakujc.jp/saga-u/>

